



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第四五一号）

秋分 しゅうぶん

九月二十三日

## 彫刻家・橋本平八

内宮前から近い伊勢市朝熊町<sup>あさまちやう</sup>に生まれ、周辺の自然に刺激を受けて作品を作った彫刻家がいいます。橋本平八<sup>へいはち</sup>といえます。明治三〇年に生まれた平八は、自宅近くの朝熊山や金剛證寺<sup>しやうじ</sup>などで遊びましたが、十代で彫刻を学ぶと頭角を現し、東京で憧れの彫刻家・佐藤朝山<sup>ちやうざん</sup>に入門。二十五歳で、日本美術院展で「猫」が入選し、東京の彫刻界に華々しくデビューしました。

そして、二十九歳でふるさと伊勢の魅力に改めて気づき、朝熊町の実家に帰り、結婚します。四人の子どもに恵まれ、精力的に制作活動を行いました。しかし、三十八歳という若さで倒れ、亡くなります。

その没後九〇年を記念した「橋本平八」展が、三重県立美術館で開かれています。「伊勢が育んだ近代木彫のスター、十五年ぶりの回顧展」と銘打った会場には、平八の作品がずらりと並んでいます。

代表作の「猫」をはじめ、ショックを受けてふるえる少女の作品「少女立像」、こごえる少年の姿を現した「裸形少年像」、さらに、正倉院宝物から興味を抱いたインド女性の像など、多彩な木彫作品は見応えがあります。

とくに、石を木彫作品にした「石に就て」に惹かれました。平八は自然の造形に関心を持ち、近くの川で石を二〇個ほど拾ってきて観察していると、命や意思があるように感じます。それを「仙」と表現し、石をモデルに木を彫って作品に仕上げたのです。木製の石をしばらく見ていると、なにか不思議なものを内包しているような、そんな感じがしました。

朝熊山の金剛證寺奥の院入口そばには、平八の顕彰碑が地元の人々の協力です立っています。そこには、「石に就て」にちなんだ宮川上流産の石も置かれているとか。一度、見てみたいものですね。会期は十月十三日まで。

文 千種清美



# おかげの里便り

## おかげ横丁

### ○ 第31回 来る福招き猫まつり

31回目のテーマは「天高く 馬肥ゆる秋 福来ゆる秋」。

空が高くなり、清々しい秋は、招き猫まつりの季節。今年も伊勢に招き猫たちが集結。

耳を澄ませば、来年の干支・馬の蹄音が。未来に向かって力強く駆けて行く、全てがうま(馬)くいきますように。

作家さんによる招き猫や限定料理、体験教室など、福がいっぱいの来る福招き猫まつりにぜひお越しください。

日 時／9月13日(土)～9月29日(月) 9:29～17:29(催しにより異なる)  
会 場／おかげ横丁一帯

#### ● 吉兆招福鈴授与

地元の氏神様でお祓いを受けた福鈴です。作家がデザインしたオリジナルのポチ袋に入れて929名の方に授与いたします。＜デザイン：花房さくら＞

日 時／9月29日(月) 9:29～

場 所／おかげ横丁入口常夜燈前

※雨天の場合、場所が変更になる場合がございます。

#### ● 招き猫巡行

子どもたちが神輿を担ぎ、お囃子と猫舞をしながら大きな招き猫の山車を曳きます。

元氣いっぱいにおはらい町を練り歩く姿をご覧ください。

日 時／9月28日(日) 11:00～11:45、9月29日(月) 10:00～10:45

場 所／おはらい町通り

※雨天中止

お問い合わせ／おかげ横丁総合案内「おみやげや」 電話0596-23-8838

## 五十鈴塾

### ○ 近代の伊勢と新聞～吃驚新聞を中心に～

伊勢商工会議所の近くの通りに「びっくり世古」という名があることをご存じの方もおられるでしょう。これは明治～大正期に『吃驚新聞』という新聞を出していた新聞社が付近にあったことに由来します。

『吃驚新聞』は現存する紙面がほとんどありませんが、当時の雑誌や、同時代に生きた人々の作品などから、どのような新聞であったのかを知ることができます。なぜ、いまなお通りの名として残っているのか、その背景に迫ります。

日 時／9月29日(月) 13:30～15:00

場 所／五十鈴塾右王舎

講 師／太田 未帆(元伊勢市総務部総務課市史編さん係嘱託)

参加費／一般 1,600円 会員 1,100円

講座についてのお問い合わせ・お申込み／電話0596-20-8251

## 五十鈴茶屋

### ○ 五十鈴茶屋節気菓子

はつ も み じ  
初 紅 葉

伊勢の野山も秋の装いになり、木々の葉が美しく彩り始めました。川面の様子を寒天で表し、伊勢からの秋便りを届けます。

はつ かり  
初 雁

「初雁」とは、その年の秋、初めて姿を見せた渡り雁のことです。山芋を使った薯蕷生地で白餡を包み、雁の飛ぶ姿を表しました。

つき よ  
月 夜

毎夜少しずつ姿を変える月には、三日月や満月など様々な呼び名があります。こし餡の蒸し羊羹に栗を仕込み、美しい秋の夜空を表しました。